

民報あばしり

NO.1002

2015.1.11

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二一四四五八
F四三二一四四五七

元旦から街頭宣伝!

穏やかに新年を迎えた元旦の朝、日本共産党網走市議団ときくち宏副委員長（市議予定候補）は、市内各所で街頭宣伝を行いました。

昨年の衆議院選挙でのご支援にお礼を述べ、安倍首相が首相指名後の記者会見で、自らの政治を「戦後以来の大改革」と称し、「当然、賛否は大きく分かれ、激しい抵抗もあります。しかし、今回の総選挙で、引き続きこの道をまっすぐ進んでいけと国民の皆さまから力強く背中を押していただいた」などと述べたことに対して、これは、国民の「賛否が大きく分かれ」ていようとも、「激しい抵抗」があろうとも、暴走を続けようという、新たな暴走宣言にほかならないと厳しく批判しました。

「縄」の完全勝利は、安倍政権の暴走政治に対する痛烈な批判の民意を示すものですと述べました。最後に、4月の市議会議員選挙で、必ず日本共産党の2議席を確保するため、衆議院選挙で寄せられたご支援を引き続きお寄せくださいと訴えました。



「背中を押した」などとは到底いえない。総選挙で自民党の得票は、有権者比では比例で17%、小選挙区で24%に過ぎず、与党が3分の2を超える議席を得たのは、小選挙区制度が起こしたマジックであり「虚構の多数」にほかならない。国民は、安倍政権に白紙委任を与えたわけではない。躍進した日本共産党と「オール沖

2015年 新春のごぞい

みなさん、お誘い合わせの上、ご参加ください。

日時 1月25日（日）

午後1時30分～3時30分

場所 エコーセンター

2階大会議室

会費 千円（中学生以下無料）

主催 日本共産党網走市委員会、日本共産党網走市後援会

いよいよ東奔西走

新年明けましておめでとうございます。年末の総選挙で躍進させていただき、久しぶりに晴れやかな気持ちで新年を迎えました。一方、小選挙区制での虚構の多数を得た安倍首相は、年頭に「戦後以来の大改革」を叫び、国民の中に多数の慎重・反対が根強くある安全保障や原発再稼働、憲法改正などで民意を無視し暴走することを表明しました。

この安倍政権暴走の防波堤となるのが、4月に行われる市議会選挙です。定数4減の厳しい選挙ですが、きくち宏さんを当選させてバトンタッチできるように頑張ります。

菊地ひろし まっしぐら

年末の大雪の影響がまだまだに続いています。一本裏道に入ったらツルツルのデコボコでも歩けません。

私の住む錦町の樹木が積もった雪に根元から折れ、車止内川を越えて道路にせり出してきていました。飯田市議と相談しさっそく市に対応してもらいましたが、この地域は土砂災害警戒区域でもあります。山からの雪水や、雨水が道路に流れ出している状況は以前からも続いているなど、この地域の防災については飯田議員も何度か議会で取り上げてきています。

地域の意見を伺い、市の協力を得ながら、抜本的対策が打てるように、私も引き続き力を尽くしたいと思います。

松浦春戦モ

明けましておめでとございます。ここ数年のお正月は、毎日のように雪が降り除雪に追われましたが、今年はずいぶんお正月になりました。とはいっても、わが家には、昨年暮れに降った大雪の残骸が年末年始の忙しさで残っていました。

5日の新年交礼会が終わってから意を決して挑みました。氷の塊のような雪で、開拓用の鍬を使って雪山を砕いて、除雪機で吹き飛ばす方法をとりました。途中から94歳の義父も加わって4時間かかって、やっと終わりました。また、天気が崩れるとのことなので、その前に終わらせて良かったと安堵しています。しかし、両手両足、腰の痛みなど重労働の後遺症に苦しんでいます。

流水

新しい年となりまして。昔は無事に新年を迎えることを寿ぐ（ことほぐ）ということ、さまざま形式でお祝いをしてきました。家族揃って一年を無事に過ごすことが大変だった時代があったからの寿ぐでした。しかし最近是一年の終わりと初めの境目もいつもの「昨日と今日」に近いものになったような気がします。去年も今年も「何も変わらない」とあきらめに似た無力感が世の中に漂っている。

「世の中どうにもならない」と「夢や希望？語るのもムダ」と国民が感じるようなとき、実は政治は大きく動いています。国民が気づかないように巧みに今年の世界大戦後70年の節目の年です。侵略や独裁、暴力を否定し平和を求めていくことが戦後の世界体制となったのでした。紆余曲折はありましたが、この流れは人類の到達点として発展してきています。▼「戦後レジームからの脱却」と言葉が闊歩しています。国民生活が何かしら良くなるようなイメージを持っています。しかし、よく考えると「レジーム」というのは体制・仕組みとすることで、すから、「戦後レジーム」を変えようという事は、世界大戦の反省から生まれた世界の到達点を否定するということになるではないでしょうか▼今年には国民の目にはつきり写らないように進められてきた政治が、私たちの目にもはつきりわかるように、大きく変えられようとはと心配です。戦後70年の「首相談話」「憲法改悪」「集団的自衛権」：「気づくのが遅かった」とならないために頑張らないと(0)